

みんなと音楽ができて楽しかったよ
吹奏楽部 三田 玲央

おもてなしの心を学びました
茶道部 荒井 七星

沢山の人の感謝を
美術部 鈴木 歌乃

高校生たちの 最後の夏

楽しく過ごしていた高校生活。このままあと1年、日常が続くと思っていた矢先の休校。新型コロナウイルスによって、最後の集大成となる部活動もできなくなりました。

6月から学校は再開したものの、思うような活動ができない日々になりました。自分たちにできることは何か考え、取り組んだ最後の数カ月。

真夏の太陽のようにまぶしく輝きを放つ高校生たちを追いかけました。

“結果”は勿論“過程”も楽しんで!!
山岳対一部 大田 翔

努力と感謝をわすれずに!
ハンドボール部 高橋 このみ

人として成長できました。
濱瀬 颯也



新型コロナウイルスの流行につれて、甲子園やインターハイなど、全国規模の大会が中止を決定、そして県独自大会の開催が話題となりました。それに加えて、文化系の部活や、地域の活動を主体としている部活も、同じように大きく影響を受けていました。

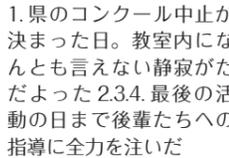
いなべ総合学園高等学校で、最後の部活動に全力で取り組む高校生の様子を、みなさんにお伝えます。

吹奏楽部 ~未来へつなげ、楽器の音色~

始まりは3月の定期演奏会の中止。卒業する先輩と一緒に演奏ができる楽しみにしていた舞台がなくなりました。6月に入り、学校や部活が再開したのも束の間、3年生にとって最後の発表となるコンクールの全部門の中止が決まりました。

コンクールの中止が決めたあと、独自の発表会やオンラインでの演奏の話もありましたが、全て行わないことになりました。それは受験勉強への不安だけでなく、みんなで一緒に合わせて練習ができないこと、そして地域の人たちへの感染拡大防止や、後輩たちの活動に影響を与えたくないと考えてのことでした。最後の夏は後輩たちの指導に全力を注ぐ、それが3年生の出した答えでした。

引退しても、文化祭や卒業の定期演奏会など楽器を奏でるチャンスが再び訪れることを信じて、悔しい気持ちとともに楽器をケースにしまいこみました。



1. 県のコンクール中止が決まった日。教室になんとも言えない静寂がただよった2.3.4. 最後の活動の日まで後輩たちへの指導に全力を注いだ

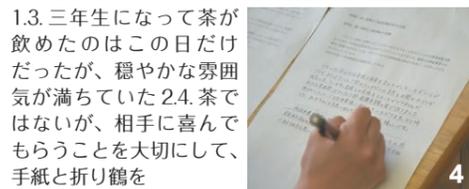
茶道部 ~最初で最後の一杯~

茶道の作法や日本の心を学ぶ茶道部。茶室という限られた空間で茶や菓子など飲食を伴うため、学校が再開しても思うような活動ができず、新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。

4月に行われた新入生に向けたクラブ紹介では、茶を提供できず、湯を器に入れて雰囲気味わってもらいましたが、茶道の良さが伝わったのか不安だったそうです。

毎年、最後の夏の活動として特別養護老人ホームを訪問し、茶の振る舞いを行っていましたが、こちらも中止に。部員たちは施設の利用者と心の繋がりを持てるよう、折り鶴を添えて手紙を渡すことにしました。

7月下旬、3年生が引退する日。この日、ようやく茶を飲むことができた部員たち。3年生にとっては、学年が変わって最初に飲んだ一杯が、最後の一杯になりました。



1.3. 3年生になって茶が飲めたのはこの日だけだったが、穏やかな雰囲気満ちていた2.4. 茶ではないが、相手に喜んでもらうことを大切に、手紙と折り鶴を

美術部 ~今できる私たちの表現を~

美術部にとって大事なコンクールの1つが、3月に行われる北勢地区高等学校美術展。自分が積み上げてきた経験や技術を作品に込めて発表する場で、評価されれば全国にも繋がります。出品に向けて制作を続けてきましたが、間際になってのコンクールの中止。描き上げられた作品たちは、日の目を見ることなくなくなりました。

しかし、学校の再開にあわせて流れは大きく変わっていきます。コンクールに出品予定だった作品を集めた特別展を市役所で開催。また市内のギャラリーで6月に開催予定だった美術部展「水深0m」も8月に延期して開催できました。部員たちの想いがこもった作品は、あてられたライトの光とは違う輝きを放っていました。



1. 美術部展「水深0m」の会場。2.3. 会場を飾り付ける部員たち。最後の展示を多くの人に楽しんでもらえるよう、細かな配置まで相談しながら作業に取り組む

山岳スキー部 ~最後のキャンプは始まりの場所で~

競技登山は4人1組となり山登りに関する体力や知識を評価される採点競技です。テントの設営や炊事をして過ごすことは避けられません。そのため他の運動部が3年生にとって最後となる県独自の大会を開催する中、山岳スキー部は目標となる大会がなく引退を迎えるだけとなりました。

最後の活動として決めたのは、校内で送別会として行うキャンプです。下級生が卒業生に料理を振る舞い、3年間の活動で撮りためてきた写真を見ながら思い出を語りました。「山に登る前は行きたくなくてすごく嫌だったけど、上から見た景色は忘れられない。」

山登りと出会い、辛さと魅力を知ることができた高校生活。最後の最後にテントを張ったのは、仲間や思い出を与えてくれるきっかけとなったいなべ総合学園高等学校でした。



1. 写真を見ながら思い出話で盛り上がった。2.3. 最後の活動は良い天気恵まれ、みんなで楽しい思い出を作った。テントを設置したが、密集を避けるため使うことはなかった

ハンドボール部 ~続けるのか辞めるのか~

多くの運動部にとって、3年生最後の集大成として目指すのが全国高等学校総合体育大会です。ハンドボール部の部員たちが、その中止を知ったのはテレビの報道でした。

9月に県独自の大会が開催されることが決まりましたが、女子の3年生は12人のうち半数が受験を考慮して退部を考えていました。何度もチームで話し合い、みんなで一緒に最後の大会に臨むことを決めました。男子は20人の部員を、5人の3年生でまとめました。この1年、県内で3番手という壁が越えられず、最後の大会では優勝を目指していこうと、気持ちを切り替えて練習に取り組んできました。

迎えた県大会。部員たちの表情にはやりきった涙と笑顔があふれていました。



1.2. 男子は準決勝でライバルの桑名工業と対戦。惜しくも2点差で敗戦3.4. 女子は3年生を中心に色んなメンバーを出しながら、全員プレーで試合に臨んだ